

教師の時の自分と、インタープリターとしての今の自分

～振り返りと気づき、大切にしたいこと～

小林 伸治 (NPO 法人わおん、NPO 法人蓼科・八ヶ岳国際自然学校、他)

キーワード：自然体験における大切にしたいこと (だんご3兄弟、3間、四つ葉のクローバー、啖啄同時)

1 はじめに

教職34年間、理科教師や生徒指導として子どもたちと学んできた中で、教室には入れない子など、様々な子どもたちと接し、自然体験の大切さを実感し、わたしの進むべき道を見付け、環境教育を軸に、人間関係づくり、人づくりをしてきました。その経験を生かして、第2の人生をスタートしました。ところが、コロナ禍になり、なかなか、機会が作れず、気持ち的にも、モヤモヤしていましたが、ピンチをチャンスに変えるしかないと、発想の転換をして、教員という狭い世界での実践、自己流自然体験が社会に通用するか、今までの体験を振り返り、多くの環境教育の研究者や研修会にオンラインで参加し、理論的なことを学び、振り返りと反省と、これからの方向を整理する一年間を過ごしてきました。

その中でも、少しでも、コロナ禍、感染対策をし、自然体験を実践しながら、今後の大切に方向を、自分なりにまとめてきたことを発表します。来年には、自分で、「自然学校」を立ち上げることを目標に、スキルアップと、人脈づくり、一人ではなく、多くの方と協力していく体制を作っている最中です。

2 インタープリターのあり方編

(1) 教師時代の振り返り (教室には入れない子どもから学ぶ) と気づき(⇒)

①外遊びと畑での野菜作り

あそびの中でケンカが起こり、最初は間に入りすぎていた自分がいて、わたしを頼って、なかなか解決しなかったが、見守ることもしてみたら、お互いの気持ちを聴きあい、折り合いをつけて解決していく。

⇒しゃべりすぎても、支援しすぎても自立しない、少しのてこ入れて、自分たちで解決する力は子どもにある。居場所づくりから絆づくりへ。参加者主体で、人間関係づくりが基本にある。

②畑で、やろうとしない子

「つまんねえかなあ」「君しかできない耕しを頼みたいんだけどな」と、横に座って話を聴いていたら、しばらくして「しょうがねえ」といい、その日から、何も言わなくてもやり出す。

⇒やるのが当たり前と答えを決めていた自分がいたが、一人一人の感情があり、いま、ここでの気持ちをまず受けとめ、一緒に考えることの大切さと役割を持つ場と、存在の受容

の支援で自己肯定感から人の役に立っているうれしさ、自己有用感がでてる。

③「葉っぱさがし」で、何ももってこなかった子

ネイチャーゲーム「この葉っぱと同じものをもってこよう」とうアクティビティをしたときに、何ももってこなかった子どもがいた。理由を聞いてみると「同じ葉っぱはないよ、形も、大きさも、色も少しづつ違うもん」

⇒自然の中には、同じものは一つもない。みんな違ってみんないい。感じ方の違う一人一人の違いをわかり合うことが、環境教育に大切であることを気づかせてくれた。大人の勝手な枠で評価していた自分を反省した。

(2) インタープリターとして、子どもたちから学ぶ

①後ろ向きで、話を聞かず、自分の好きなことをやる子

アイスブレイクで、セブンじゃんけんで、相手と合わせて7になるじゃんけんゲームの時に、二人でやるところを、好き勝手に五人でやり出した。教師時代には叱ったかもしれないが、「自分たちで工夫してあそびを作り出した良さを」皆の前で紹介した。自然と拍手。ルール破ってごめんねの声もその子から出てきた。その後の活動で、自由な活動の中で穴掘りや川づくりに、わたしも一緒にどろんこになりやった。その後、ちゃんと話を聞き、発言し、みんなに呼びかけるくらいになっていた。

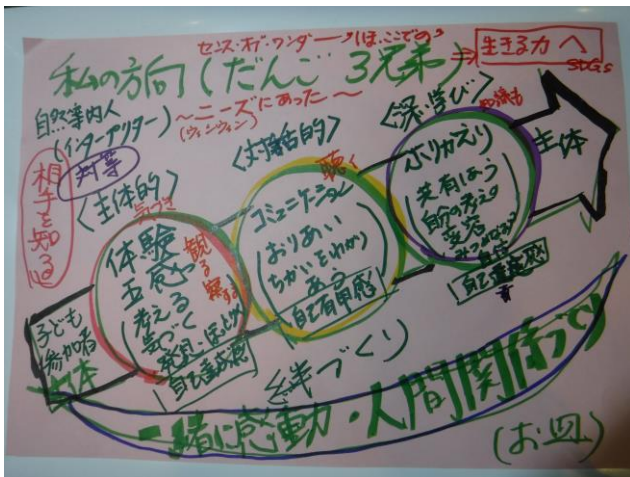
⇒相手の気持ちを知り、言動の受容により、その子の自己肯定感と自己反省に繋がり、一緒に自然で五感を使って、感動を共有し「対等」に汗をかき協調・協働することにより、協調性、生きる力につながる。

②ひまわりの種植えと一緒に協力してやった子の発言

はじめてあった子ども同士とわたしで、種うえをした。雑談しながら。教師時代は、黙って作業をと呼びかけていたが。雑談しながら、この種は「鳥に、土に、私に」と、自然界のことも話しながら。一緒にやった。最後の感想で子ども同士がつぶやいていた「今日、初めて会ったのにこんなに仲良くなるなんて」「すっきりした」

⇒対等に一緒に五感を使って体験し、感じて動く、人間関係づくりになる。子ども同士の交流と心の共鳴を、インタープリターは見守る。対話と交流を促す、オーケストラの指揮者のようなものだ実感した。

③仲間に入れず、自由な時間に何をしてもよい戸惑う子
アイスブレイクで、「間違っても笑顔になれる」「みんな違っていい」を体験し、笑顔が出てきた。ソーレというグループ
づくりで、自然と知らない同士がまとまるようになってきた。
その後、色んな友だちと協力して、遊びを工夫していった。
⇒アイスブレイクで不安感を取り除き安心感を持てるように
すること、活動のきっかけ作りとしてのネイチャーゲームな
どすることは必要であり、参加者の取りかかりのきっかけに
すると、人は自ら考え発見し、気づき、振り返り、さらに工
夫していく PDCA サイクルをするようになる。



<私の考えるインタープリターのあり方：だんご3兄弟>

3 インタープリターのやり方・技法編

(1) 野外活動から自然体験活動へ

以下、教師時代の若い頃、キャンプや登山、自然での活動が、
野外活動として、安心安全な行事の成功ありきでやっていた
ことから、環境教育を重視して、自然体験活動に変えていき、
今も大事にしていることを、表でまとめてみました。

野外活動的	⇒	自然体験活動的に
なたナイフは使わない	⇒	危険なことを学び練習し使う
焚き火訓練	⇒	時間をかけて考えて、挑戦する
どこでも同じしおり	⇒	その場、その時の感じるもの
同じ年齢同士	⇒	異年齢同士の関わり
「あいこくの雨で」	⇒	雨の良さ、気候を楽しむ
「時間ないから早く」	⇒	ゆっくりできる計画
植物スケッチで名前調べ	⇒	好きな植物スケッチ
知識の伝達がおおい	⇒	名前よりも美しさを共感
自由な時間、作業的が少ない	⇒	体験時間を重視
登山で登るしかない	⇒	途中途中の景色や生き物に感動
自然の怖さばかり意識	⇒	我々が自然にリスペクト
指導することばかり意識	⇒	一緒に楽しむ

野外活動や学校行事の目的の持ち方によって、これからも、
学校の中でも、自然学校でも、大切にしていきたいことは、
次の①～⑤であります。

- ①いま、そこでの、体験でしか味わえない、感動を得られるようにしたい。
- ②水のありがたさや、火のありがたさ、普段使っているものがいつもあるのではなく、不便さの中から、そのありがたさを味わえる経験ができるようにしたい。
- ③知識の伝達ばかりでなく、体験という活動で、自分から発見できる場を確保したい。
- ④自分たちで、考え、相談し、発見し、挑戦できる時間と空間と仲間での協力の良さを実感できるようにしたい。そのためにも、事前の下見と安全確保とゆっくりできる計画をしっかりとしておく。
- ⑤参加者がどのようなことを経験してきたか、何を求めているか、どのような方で、どのような健康状態下を、事前に知っておくことも重要である。

(2) 誰一人取り残さないSDGsの基本理念に結びつけて

①後ろの子が聞こえない、話が通らない話し方

教師時代の反省で、先頭が私で、長い列の時に、何か話すときに、後ろがつかないままに話していた。後ろの人は何を言っているかわからなかったと言われたことがある。今は、私が戻って、隊の中心にいて、みんながその場についてから、こちらに耳を傾けられたら、話している。

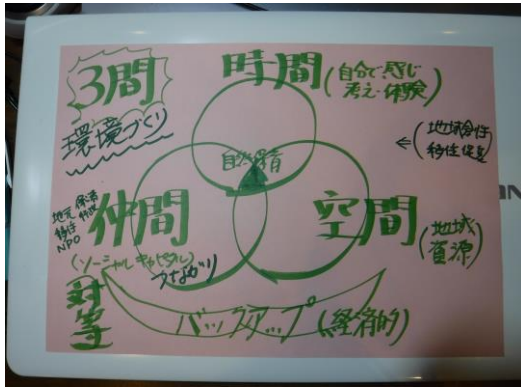
⇒一人一人を大切にしている行動へ。

②質問しても待てなかった自分

発言を待たずに、すぐにいっていた自分がある。
⇒発言を待つ、沈黙も大事。よく手を上げてくれても忘れちゃったり、言えなかったりすることがある。
手を上げてくれた事へのお礼と「まずは言おうとしてくれてありがとう」「言えなくても大丈夫だよ」というようにしている。参加者がいった言葉を無視せず、その方向を観て、心で受けとめ、うなずき、感情を受けとめる。

③価値観を押しつけず「わたしメッセージで」

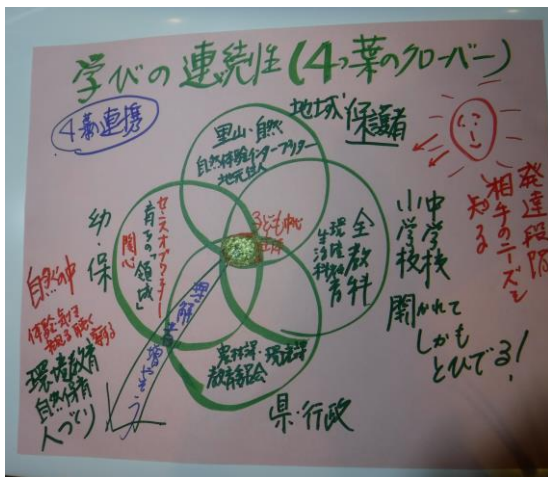
若い頃、注意するときに、だめじゃないかと相手を責める注意をしていたことがある。いまは、「いま、話を聞かないとわからなくなってしまうのが、心配だよ」「私は好きだなあ、この花の色」など、「こうしたほうがよい」よりも「私はこう思う」にしている。



< 3間：時間・空間・仲間の大切さ >

4 学びの連続性：地域創生に取り組みたい

- (1) 学校の狭い枠の中での自然体験だけでなく、地域の健全育成会での自然体験で、子どもたちの顔が違っていたことを思い出す。大人同士の連携、スタッフ同士の連携、地域の方との連携、行政との連携で、子どもの健全育成に大きく影響することを実感してきた。
- (2) SDGs 17の目標はいつも頭に入れて、自然や人間関係、社会との繋がりも意識していこうと思う。今後の課題としてコミュニケーションを大切に、地域や社会との繋がり、地域資源の活用、持続できるための人脈やネットワーク、財源確保もしていきたいです。



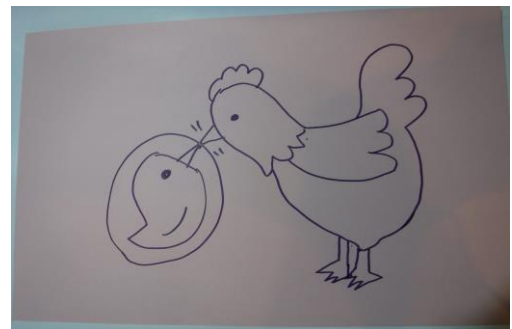
< 4つの学びに連続性と連携：四つ葉のクローバー >

5 まとめ：啐啄同時

教師の時からも、いまも、座右の銘にしている「啐啄同時」をこれからの、自然案内人インタープリターでも大切にしていきたいと思います。

「ひな鳥が卵から孵るときに、中から軽くつつく。親鳥は外から、中の様子は見えないが、気持ちを感じ取って、外側から同じ時に、同じ場所を軽くつつく。ひびが割れて、自力でひ

な鳥が出てくる。そのタイミングが早すぎて、周りからよかれと手を出しても、雛は育たず、逆に気づかないで、タイミングが遅くても、雛はあきらめてしまって中で死んでしまう。教師の時に軸にしてきたこのことは、インタープリターでも大切であること、「見えるものから」「見えないものを」感じ、伝わるような体験ができるようにしたい。相手が何を感じ、何を求めているのか？こちらからの一方的な知識の話や、気づきの邪魔をしても、楽しくないだろう、相手の気持ちや欲求をしりながらも、そっと、タイミングを見て、楽しむきっかけ作りをして、待つときはまち、やるときは、一緒に対等に、楽しんで感動を共有していきたいと思う。そのことが、自然体験活動による参加者とインタープリターの両方の「生きる力の育み」になるのだろうと思い肝に銘じていきたいです。



< 啐啄同時イメージ図 >

参考文献

- 1) 津村俊充・増田直広・古瀬浩史・小林毅 2016 『インタープリタートレーニング～自然・文化・人をつなぐインタープリテーションへのアプローチ～』ナカニシヤ出版
- 2) 阿部治・増田直広, 2020, 『ESDの地域創生力と自然学校～持続可能な地域をつくる人を育てる～』, ナカニシヤ出版
- 3) 菊間彰 2020 『「もう一度会いたい」と思われる人になる～インタープリターが伝えるコミュニケーションと探究の極意～』学事出版
- 4) 佐藤初雄 国際自然大学校 ネット記事より
- 5) 清里ミーティングオンライン, 2020. 12
- 6) KP 法オンライン講座 川嶋直 2021. 1
- 7) SDG s 教職員オンライン研修 2021. 1
- 8) オンラインSDG s 全国フォーラム2020 ながの 2021. 1
- 9) 環境教育関東ミーティング2021. 2
- 10) 2020 つなぐ人フォーラム 2021. 2
- 11) オンラインインタープリテーション入門 2021. 2
- 12) 協力隊員2 拠点移住を考える 2021. 2
- 13) 『森と自然の育ちと学び』連続セミナー2021.3 “自然保育” 第1回～第4回
- 14) 茅野市どんぐりプランオンライン 2021. 3
- 15) 清里インタープリテーションセミナー 2021, 3
- 16) ネイチャーゲームフォローアップ2020in 長野 2021. 3
- 17) 日本環境教育フォーラムオンライン講座『持続可能な社会を目指す「自然学校」の学び』2021. 5